

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は昨年、創立90周年を迎え、長い歴史において「文武両道」の良き伝統を貫き、社会に有為な人材を数多く輩出してきた。平成22年度は文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受けることができました。そして、平成23年度は大阪府から「進学指導特色校（グローバルリーダーズハイスクール）」の指定を受けることができました。いずれも、「高い志」と夢をもち、科学技術の分野など様々な分野で国際社会において活躍する人材の育成をめざしています。そのために必要な力として、「高い学力と探究心の育成」「チャレンジ精神の涵養」「人権感覚・国際感覚の育成」「英語力」「リーダーとしての資質」等が挙げられる。

本校では、「ハイレベルかつ興味関心を引き出す授業と課題研究等の探究的学習」「生徒の進路第一希望を実現するためのカリキュラムと学習・進路指導」「生徒の自主的かつ協同的活動を促す行事・部活動」等を通し、知・徳・体のバランスの取れた全人教育をめざす。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く学力の育成

(1) 真の文武両道をめざし、自学自習を促進し、家庭での学習習慣を確立させる。

ア 1、2年生では、国数英で検討し、バランスよく宿題を課す。(家庭学習の時間、毎日平均3時間目標)

イ 1年生は、部活動を緩やかにスタートし、6月までに家庭学習習慣を身に付けさせる。

ウ 1年生は入学式終了後すぐに勉強合宿を行い、高校での学習すなわち自学自習を指導する。(全員参加を原則とする)

エ 文理学科としての課題研究並びに読書を促進する。(年間平均 12冊)

※平成24年度 1、2年生の家庭学習3時間以上が全体の40%、25年度は50%、26年度は60%をめざす。

(2) キャリア教育の充実と進路第一志望実現

ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートしていく。

(生徒の進路第一希望50%以上、京都・大阪・神戸大学60名以上を目標)

イ 生徒の正しい職業観育成のために、職業別進路講演会をはじめ、職場訪問・体験等を実施する。

ウ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、大学紹介の冊子を作成する。(100%参加目標)

エ 京都大学、大阪大学等の見学、研究室訪問を行う。(参加者を200名にする：平成26年度の目標)

オ 生徒自身で、生活と学習の記録を1冊の手帳に書き込み、目標を実現するために行動を見える形にする。

2 国際舞台で活躍する人材育成

(1) 「志」の育成

ア 将来、社会のリーダーとして活躍できる人材を育成するために、「志」学を実施する。

「志」学では、社会貢献の意識を醸成し、リーダーとしての資質を育成することを目標にして、教科・科目の授業とボランティア活動等の体験的行動を行う。

イ 生徒自治会を中心に、生徒のリーダーを組織し、育成する。

リーダー講習会、メンタルトレーニングなどの能力開発を実施する。

※「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者(対象2年生)を26年度に100%をめざす。

(2) 使える英語力の育成

ア 英語によるコミュニケーション力の育成(リスニング・プレゼンテーション講習)

イ TOEFL・TOEIC等の取組みを通して、海外で通用する英語力を育てる。(受験者40名目標)

(TOEFLiBT はTOEFL コース生には60点以上を目標)

ウ 大阪大学の留学生等との交流を行う。(年間3回)

※TOEFL・TOEIC等の講習会参加者を25年度は60名、26年度は80名をめざし、受験者は半数の40名を目標とする。

(3) SSH事業の推進

ア 5年間の実施計画にもとづき、学校全体で取り組む組織を確立する。SSH事業の継続を視野に入れた取組みを推進する。

イ 科学コンクール・科学オリンピックで入賞者を出すために、各種科学コンテスト等に参加し、高い志を持たせる。

ウ 文系・理系に限らず、生徒全員が科学に関心を持ち、科学リテラシーをもつために、生徒自身の研究発表会や講師による土曜セミナー等を開催する。

(4) GLHS事業の推進

ア GLHS事業計画にもとづき、学校全体で取り組む組織を確立する。

イ 文理学科として、全員に課題研究を課し、学問としての興味・関心を高めていく。

ウ 1年間の授業成果発表(豊高プレゼン)を行い、豊高のGLHS校としての取組みを、広く生徒、保護者、教員等に知らせる。

(5) SGH(スーパーグローバルハイスクール)アソシエイトとして

ア SGHアソシエイトとして、SGHとともにSGHコミュニティを形成する。また、平成27年度の申請に向けて、教育の国際化を視野して真のGLHS校として学校全体で取り組む組織を確立する。

イ 「開かれた文化」として日本人にとって最も理解しづらい中東文化も視野に、中東の文化圏を大きなテーマにして自分自身の課題を見出すとともに、将来の日本を見据えるグローバル力を養う。

3 教員の授業力向上に向けた取組み

(1) 全教科・科目について、生徒による授業評価を実施する。(平成26年度には総合平均3.2以上を目標とする)

(2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業評価の結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。(年間2回)

(3) ICT活用授業の普及に努める。(すべての教科でICTを活用する)

(4) 初任者や経験年数の少ない教員対象の研修を組織的に行い、ミドルリーダーを育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年9月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>○3年間を通して勉学と部活動の両立を心がけ、授業を大切にすることが進路実現への最も近道であることを踏まえ、自学自習の態度を育成し、自宅での学習時間を有効に活用することが最重要課題と考えている。学校では、学習意欲の向上をめざして、進学指導特色校としての多様な企画やSSH事業をはじめとした課題研究、土曜日午前の講習、土曜セミナーや週2回の質問会等を行っている。本校が取り組んできたこれらのことについては、90%以上の生徒や保護者が肯定的にとらえていることがアンケートから読み取れる。</p> <p>○昨年度より良くなっている主な項目として「授業内容は自分の学習や発達に役立っている」(80%から85%)、「授業や学習に適した環境・施設・設備が整っている」(65%から74%)、「教材や指導内容に工夫が感じられる授業がある」(70%から80%)と、授業評価とそれに伴う地道な授業の工夫、多目的室(自習スペース)設置によるものと思われる。学習面については昨年より下回った項目はないが、授業についていけないと感じている生徒が30%いることは、個々の生徒に学習面での躓きのあることが伺われます。これは授業の準備(宿題・予習・復習)をしていないと回答する生徒が4割を超えていることとも関連しており、学習時間の確保や自宅学習の充実を促していく必要がある。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○学校行事やHR活動への満足度は高く、部活動の参加率の高さとあわせて充実した学校生活を送っていると考えられる。「学習と部活動の両立」については肯定的な回答が増加しましたが、それが自学自習の時間の充実と部活動の活性化につながっているかは今後調査していく必要がある。</p> <p>○「先生は学校生活の悩みや相談に親身になって応じてくれる」(72%から80%)、「秘密を守ってくれる」(74%から80%)などは昨年度より肯定的な回答が増加し、生徒と教員の信頼関係は良好に構築されていると考えています。「学校生活についての先生の指導は納得できる」(65%から78%)としている生徒も昨年度より肯定的な回答が増加し、学校のルール遵守への指導の理解も進んでいると考えられる。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>○保護者によるアンケートでは、進路指導の評価が上昇傾向にある。「生徒の進路に関して、家庭と連絡・連携がとれている」(48%から58%)と改善されている。また、「学習評価の仕方は納得できる」「学校は教育情報について、提供の努力をしている」等について、肯定的な回答が着実に増えている。年間2回の懇談期間を設けて面談の機会を増やしたことと日常のきめ細かな連絡が要因であると思われる。</p> <p>○「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」「子どもは充実した学校生活を送っている」等の肯定的な回答が9割以上あり、学校の教育活動全般をある程度評価されていると言えます。しかし、「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」(89%から87%)、「PTA活動は参加しやすい」(61%から59%)とほぼ横ばいの項目もあり、保護者の学校に対する関心は年々高まっている中、学校での活動に理解と協力を求めるためにも、より一層連絡等を密にする必要がある。</p>	<p>全体として豊中高校は、GLHS事業、SSH事業をはじめSGHアソシエイト事業やTOEFLコースにおける英語活用能力の向上など、グローバル人材育成をめざす多種多様な取り組みを行っていることを高く評価している。</p> <p>○豊中高校の生徒はよく挨拶してくれます。モラルが高いことはいい学校の条件。勉強だけができてはダメ。モラルの高い生徒を育ててほしい。</p> <p>○英語については、将来全員が英語を必要とする職業に就くわけではないが、日常的な会話はできるぐらいの力はつけておいた方がいい。</p> <p>○先生と生徒とのコミュニケーションは大事。困ったときに頼られる先生になってほしい。</p> <p>○地域との連携は重要。豊中高校は阪大とも近くて恵まれています。中学にも豊中高校の影響を広げて行ってほしい。</p> <p>○SSH、GLHSの取り組みをより多くの生徒に認識してもらってほしい。</p> <p>○進路については、生徒が早めに決めることができるようにサポートをお願いしたい。</p> <p>○授業評価で生徒の評価が上がっていることについて、先生の努力は大変なものがあったと思います。この努力を維持していただきたい。</p> <p>○これからはアジアとの交流が重要。台湾の学生が来たとのことであるが異文化交流をぜひ深めてほしい。</p> <p>○豊中高校の取り組みを生徒や保護者がどう評価しているかは、このアンケート調査の結果によく表れていると思います。結果として高い評価を得ており、現在、校長先生以下が取り組んでおられる改革をその方向で進めていただきたい。</p> <p>なお、第2回目の学校協議会において、各委員の先生方には教科書採択にも関わっていただき、本校の教員が教科の経験や判断を基に適切な教科書を選定しているものと認められる。特に問題はなくこれで進めていただきたい。というコメントもいただいた。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を切り拓く学力の育成	<p>(1) 自学自習の促進と家庭学習習慣の確立</p> <p>(2) キャリア教育の充実と進路第一希望の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学習指導室が計画・立案した3年間を通じた学習サポートプログラムを、適時修正を加えながら計画的に実施していく。</p> <p>イ 保護者、本人との個人懇談、学級懇談、学年懇談を各学年2回ずつ持ち、家庭との連携を密にする。また、生徒や保護者を対象とする進路講演や学習講演も各学年数回持ち、進路意識を高める。</p> <p>ウ 夜の質問会を2教室（1年生用と2、3年生用）に分けて継続実施（週2回）</p> <p>エ 1年生は全員対象として4月当初、2年生は志望者対象に7月と12月の2回校内及び校外で自学自習の習慣づけを行う取組を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 文理学科の生徒の課題研究を行う上で、京都大学・大阪大学等の学生や院生をTA（ティーチングアシスタント）として活用することで、内容の充実を図る。また、本校の生徒が上記大学等の施設・研究室を活用し、課題研究の内容の充実や進路意識を高める。</p> <p>イ 1・2年生に対して大学オープンキャンパスへの参加を促進する。</p> <p>ウ 豊陵会（同窓会）の協力によって、1年生全員に対して、職業別講演会を実施する。また、希望者に対して企業見学を実施することで進路意識を高める。</p> <p>エ 外部模試及び校内実力テスト、定期テスト、部活動等のデータをデータベース化して、生徒の学習指導・進路指導に活用する。</p> <p>オ 英語学研修、科学研修（物理、化学、生物、地学研修）を実施する。</p> <p>カ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現する。そのための、教育課程の改善にも取り組んでいく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 計画・立案された学習サポートプログラムの実現率を90%以上にする。</p> <p>イ 各学年の個人懇談、学級懇談、学年懇談を2回実施。学校教育自己診断アンケートにおいて「将来の進路について適切な指導を行っている」については80%、「生徒の進路に関して、家庭との連携がとれている」については、65%を肯定的な回答になるようにする。</p> <p>ウ より効果的な活用として実施する2教室での質問会の満足度を80%以上にする。</p> <p>エ 参加者1年生は全員対象、2年生は200名程度を目標として参加満足度90%以上にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 施設見学等の参加者100名、活用頻度及び課題研究の内容充実度。また、高い進路目標を持たせる。（京・阪・神大の希望者数を100名以上にする）。</p> <p>イ 昨年に引き続き全員参加（平成25年度ほぼ100%）</p> <p>ウ 同窓生の協力を10名以上にする。（平成25年度は11名）企業見学は20名以上（平成25年度は20名）</p> <p>エ 新たな進路資料として、生徒一人ひとりのポートフォリオを完成させる。</p> <p>オ 昨年度と同様、英語学研修は30名程度、科学研修は延べ80名参加をめざす。（平成25年度は英語学研修は29名、科学研修は延べ80名参加）</p> <p>カ 生徒の希望が多い京都、大阪、神戸の合格者60名（内現役25名）。改訂した新カリキュラムを円滑に実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 今年度、3年間を通じた学習サポートプログラムが完成した。学習スタイルとしては自学自習力を高めるために様々なプログラムを年間を通して実施するもので、その集大成として、学習発表会（豊高プレゼン）を2月6日全日を使って行った。（◎）</p> <p>イ 各学年の個人懇談、学級懇談、学年懇談を2回実施。肯定的な回答として、「生徒の進路に関して、家庭との連携がとれている」については58%→64%に増えたが、「将来の進路について適切な指導を行っている」については昨年同様76%であった。次年度に向けよりきめ細かく内容も充実させた進路講演を企画していきたい。（○）</p> <p>ウ 2学期以降、質問会というよりは単に自習室として活用している。参加人数は60名程度で満足度は高いが、それは質問というより自習室としての活動によるものの影響が大きい。次年度見直し必要。学習面については、教員がていねいに生徒に指導しているのと、質問内容はほとんど数学ということもあり、「学習質問会」は、ほぼその役割を終えたので、次年度は自習室として開放する日時を設定する。（△）</p> <p>エ 1年生は入学式後全員学校で学習会を行った。2年生は90%以上の参加があり、参加満足度90%以上であった。一定の成果はあったので、次年度も1年生は入学式を4月2日とし、次の3日から自学自習への学習サポートプログラムを実施していく。（◎）</p> <p>(2)</p> <p>ア 参加人数も100名を超え、見学だけでなく実験体検等中身も充実させることができ、京・阪・神大の希望だけでなく、内容で大学学部を考える生徒が増えた。次年度も、進路を考えるよい体験でもあるのでより一層連携を進めていく。（◎）</p> <p>イ ほぼ計画通り参加促進することができた。次年度も、進路を考えるよい機会でもあるので継続していく。（○）</p> <p>ウ 現職の方（本校卒業生）12名によるキャリア教育を1年全員に希望別参加型講演会を2回（同日）実施することができた。また、企業見学として三菱重工、新日本製鉄、島津製作所等25名参加した。次年度も、進路を考えるよい機会でもあるので継続していく。（◎）</p> <p>エ 校務処理システムや模試等のデータをベースにしたデータベースづくりのシステム構築ができた。ただ、途中止まったりすることもありまだまだ校務処理システムそのものが安定していないので少し使いにくい面がある。（○）</p> <p>オ 英語学研修は35名（昨年29名）、科学研修は述べ80名を超えた。次年度も継続していくとともに、英語に特化した海外短期留学としてフィリピン語学研修を行う（11名参加でTOEFLiBT70点を超える生徒も出た）（◎）。</p> <p>カ 新カリキュラムとして、平成27年度から正式に実施予定のTOEFLコース生のカリキュラムを作成することができた。（○）</p>

<p>2 国際舞台で活躍する人材育成</p>	<p>(1) 志の育成 将来、社会のリーダーとして活躍できる人材を育成するために、「志」学を本格実施する。「志」学では、社会貢献の意識を醸成し、リーダーとしての資質を育成することを目標にして、教科・科目の授業とボランティア活動等の体験的活動を行う。</p> <p>(2) 使える英語力の育成</p> <p>(3) SSH事業の推進</p> <p>(4) GL事業の推進</p> <p>(5) SGH事業の申請</p>	<p>(1) ア 地元豊中市と連携し、公民館・分館、小中学校、支援学校、高齢者施設等の取り組みや活動に本校生（主として2年生）が参加し、体験的活動を行う。その中で、自分の有用感や社会貢献の志を育てる。クラブ単位での参加・活動も進めていく。 イ 生徒自治会を中心に、教員とともに学校の自治会規則を新たに作成させ、リーダーとしての意識及び学校の帰属意識を高めていく。</p> <p>(2) ア 短期集中リスニング講習で英語リスニング力を高める。 イ 1年生より先行実施するTOEFLコース生のプログラムとして毎日放課後の英語学習を行う。 ウ 年度末に3週間程度海外英語留学を行い海外の生徒とディスカッションできるレベルの英語力を育成する。また、事前、事後学習としてSkypeを利用したマンツーマンの英語学習を行う。 エ 大阪大学の留学生や豊中地域の留学生等との交流を行う。</p> <p>(3) SSH事業の推進 ア 課題研究、研修旅行、校外外の発表会等、理科が中心となるが、他教科も協力して学校全体で取り組む。 イ 科学コンクール・科学オリンピックで入賞者を出すクラスの生徒を育てるために、土曜日SSS（スーパーサイエンスセミナー）生を募集して高いレベルの課題研究を行う。 ウ 文系・理系に限らず、生徒全員が科学に関心を持ち、科学リテラシーを育てる。</p> <p>(4) GLHS事業の推進 ア GLHS事業計画にもとづき、学校全体で取り組む組織を確立する。 イ 文理学科全員に課題研究を課し、学問としての興味・関心を高めていく。 ウ 1年間の授業成果発表（豊高プレゼン）を行い、豊高のGLHS校としての取り組みを、広く生徒、保護者、教員等に知らせる。</p> <p>(5) SGH事業の申請 ア SGH事業の申請に伴い、教育の国際化を視野して真のグローバルリーダー校として学校全体で取り組む組織を確立する。 イ 「開かれた文化」として日本人にとって最も理解しづらい中東文化も視野に、中東の文化圏を大きなテーマにして自分自身の課題を見出すとともに、将来の日本を見据えるグローバル力を養うためのプログラムを開発する。</p>	<p>(1) ア・実践報告をまとめる ・学校教育自己診断結果における活動に肯定的な答えが85%以上。（平成25年度は81%） ・「志」学の取り組みの一つである地域交流事業の参加者（対象2年生）を引き続き100%にする。 イ・自治会規則の完成 ・リーダー講習会、メンタルトレーニングなどを2回以上は行う。</p> <p>(2) ア リスニング講習参加者 300名にする。（平成25年度270名） イ TOEFLコース生を30名以上にする。 ウ 海外英語留学及びSkypeを利用したマンツーマンの英語学習の実施による参加生徒数や満足度を測る。（10名以上の活用） エ 留学生等との交流を昨年同様文理学科全員（160名）に対して年間3回実施する。（平成25年度3回）</p> <p>(3) SSH事業の推進 ア 全教職員が協力して関わることのできる組織とする。 イ 海外の高校生と共同研究を行う。（平成25年度はシンガポール高校生科学チャレンジコンテストに応募することができ、Design and Build Challenge部門では本校生が優勝した。） ウ SSHアンケート：科学に興味関心をもった生徒を85%以上にする。（平成25年度は81.5%）</p> <p>(4) GLHS事業の推進 ア 課題研究委員会を組織して、各教科が関わる体制にする。 イ 昨年度同様1年生には文理学科全員に課題研究を課し興味関心をもった生徒を80%にする。（平成25年度は、課題研究に興味関心をもった生徒は75%） ウ 豊高プレゼンでのアンケート結果における肯定的な答えを85%以上にする。（平成25年度は85%）</p> <p>(5) SGH事業の推進 SGHアソシエイトとして、次年度の事業への獲得に向けて、校内体制の充実を図る。 ア 現在組織として動いているGL委員会を取組む体制をつくる。 イ 国内外の大学、企業等と連携して課題に取り組めるようなプログラムを開発する。</p>	<p>(1) ア 計画通り実施され、実践報告書も作成中。また、生徒の満足度も肯定的な答えは85%を超えている。次年度も継続させるとともに、報告書の充実も図っていきたい。（○） イ 今年も昨年同様、自治会の生徒たちが、私立高校も参加する第1地区の自治会・生徒会連絡会議の主催及び関西生徒会連盟へ進行役として参加。また、校内では新たな自治会規則を現在作成中で、より学校での帰属意識も高まってきている。（◎）</p> <p>(2) ア 今年度は夏期集中してリスニング講習を実施することができ、参加者は300名を超えることができた。短期集中の方が効果は高いようなので、次年度も短期集中で行ってきたい。（○） イ 先行実施したTOEFLコース生。放課後約1時間毎日実施。クラブができないということもあり結果として17名（最後まで残ったのは15名）ということになったが、彼らの意欲は高く今後の伸びが期待される。次年度は、授業時間内にTOEFL仕様の事業を行う。（△） ウ フィリピンでの英語研修に行く生徒10名が事前学習としてSkypeを利用した英語学習を実践している。（◎） エ 予定通り、文理学科全員の160名が留学生との交流会を行った。その内容は、事前にグループごとの課題研究（異文化理解）を中心とした英語での討論会形式とすることができた。（◎）</p> <p>(3) SSH事業の推進 ア 学校全体で取り組める体制ができ、第2期SSH申請を行うことができた。（◎） イ 3月に台湾の台頭女子高等学校と共同研究を行うプログラムを作成することができた。（○） ウ SSHアンケート結果で科学に関心を持った生徒は88%（昨年81.5%）になり、着実に理系に関心を持つ生徒が増加してきている。（◎）</p> <p>(4) GL事業の推進 ア SGHアソシエイト校ということもあり、文系の課題研究を学校全体で取り組める体制ができつつある。（○） イ 文理学科全員に課題研究を行うための基礎リテラシーとして前期は科学一般教養、後期は課題研究のテーマづくりを行った。課題研究に興味関心をもった生徒は83%になった。（◎） ウ 豊校プレゼンは2月6日の全日で実施。（◎）</p> <p>(5) SGH事業の推進 ア SGH推進委員会を組織立てた。（○） イ 「つながり」と「文化」から紐解く豊中グローバルプログラムとして日本とイスラームから新たなスタンダードを創造する人材育成プログラムを開発中。（○）</p>
----------------------------	--	---	---	---

<p>3 教員の授業力等の資質向上に向けた取組み</p>	<p>(1) 全教科・科目について、生徒の授業アンケートを実施する</p> <p>(2) 年2回実施する授業評価をもとに、各教科で研究授業・研究協議を実施する。また、学校教育自己診断の結果も踏まえて教科会議で分析したものを持ち寄り、職員研修も行うというPDCAサイクルを回す。</p> <p>(3) ICT活用授業の普及に努める。 (すべての教科でICTを活用する)</p> <p>(4) 初任者や経験年数の少ない教員対象の研修を組織的に行い、ミドルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 昨年度同様、全教科・科目について、生徒による授業評価を年間2回実施する。</p> <p>(2) 各教科ごとに年1回の授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行い、教科・科目としての授業評価を高める。(年間2回)</p> <p>(3) ICTを活用した授業について、改装される多目的室で電子黒板による授業やプレゼンも行い、普及に努める。</p> <p>(4) 新任や経験の少ない教員には、社会人としての振る舞いや教科指導・生徒指導等に自信と誇りを持って取り組ませ、生徒を教育することの達成感を味あわせる。</p>	<p>(1)年間2回実施することにより、1回目で低い値であった教員の授業力をより高めていくことで、評価の平均値を3.2以上にする。中でも、座学での評価を3.0以上にする。(平成25年度は平均値は3.15、座学での評価は2.95)</p> <p>(2) 研究協議、保護者や教育関係者による授業公開での意見、学校教育自己診断等を元に、各教科で授業についての分析や改善のための総括を作成する。「興味・関心が持てるようになった科目」に対して、生徒の満足度を70%以上にする。(昨年度は68%)</p> <p>(3)すべての教科でICTを活用する。(平成25年度は、地理、理科、英語、国語)</p> <p>(4) 昨年同様、管理職や分掌長等による研修を週1回程度行う。(平成25年度は週1回行った。)</p>	<p>(1) 評価の平均値を3.19となった。座学でも3.15となり、目標を上回ることができた。(◎)</p> <p>(2) 各教科ごとに年1回の授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行った。また、各教科で授業についての分析や改善のための総括を作成中。「興味・関心が持てるようになった科目」に対して、生徒の満足度は73%に増加した。これは、各教科での第1回授業アンケート後における授業分析や改善策及び校内授業力向上研修によることも大きい。まさに、PDCAサイクルが上手く回っているものと思われる(◎)</p> <p>(3) ICT活用授業については、多目的に設置された電子黒板を利用して理科・英語・国語で数回行われた。今後すべての教科でICTを活用した授業展開を全校で取組みたい。また、校務処理システムを活用した校内LANによる教育情報の活用も更に考えていきたい。(△)</p> <p>(4) 新任や経験年数の少ない教員には毎週木曜日の4限目に研修を行っている。この1年間で着実に新任や経験の少ない教員の力は伸びてきている。次年度については、新採を含めた教員経験年数の少ない教員だけでなく、意欲ある若手教員に、本校だけでなく大阪の教育を担ってもらえるような研修を校長も交えて週1回行う。更に教員の質の向上を図っていきたい。(◎)</p>
----------------------------------	---	--	---	---